

平成 30 年度
喬木村及び喬木村議会合同
による省庁・国会議員訪問
要望活動報告書

実施年月日：平成 30 年 11 月 14 日（水）～15 日（木）

長野県下伊那郡喬木村議会

喬木村議会省庁訪問実施要項

1. 趣旨

喬木村議会は住民福祉の向上を図るために、喬木村議会基本条例に基づき「開かれた議会」「身近な議会」を実現する。そのために中山間地域の小規模自治体が抱える課題解決のために、国の関係機関・地元選出国會議員を訪問し、国の動向を調査研究・研修を実施することで議員の研鑽を積むと共に、要望書を提出して意見交換を行う。

2. 実施日程と訪問内容他

【1日目】平成30年11月14日（水）

役場発午前6時30分

① 議員会館訪問

11:00 到着予定 参議院議員会館で下車。

地元選出自由民主党国會議員事務所へ訪問（要望書の提出：議長）

11:00 頃 宮島参議院議員訪問

11:40 頃 吉田参議院議員訪問

総務省 午後14時から（宮下衆議院議員：宮下秘書同行）

訪問先：自治行政局行政課

「議員活動におけるICT活用についての提言書」の提出と意見交換（11/19開催の地方議会活性化シンポジウムについて）

説明者：下岡議長・後藤議員

記録：下平議員

【要望書提出先リスト】

総務大臣	石田 真敏（いしだ まさとし）様
自治行政局長	北崎 秀一（きたざき しゅういち）様
官房審議官	吉川 浩民（よしかわ ひろみ）様
自治行政局行政課長	森 源二（もり げんじ）様

国土交通省 午後14時30分から（宮下衆議院議員：宮下秘書同行）

訪問先：道路局

「三遠南信自動車道の建設促進及び地方道を含む交通ネットワークの強化を求める要望書」の提出と意見交換

説明者：小池副議長・下平議員

記録：木下議員

【要望書提出先リスト】

国土交通大臣	石井 啓一（いしい けいいち）様
国土交通副大臣	大塚 高司（おおつか たかし）様
国土交通副大臣	塚田 一郎（つかだ いちろう）様
国土交通大臣政務官	工藤 彰三（くどう しょうぞう）様
国土交通大臣政務官	田中 英之（たなか ひでゆき）様
国土交通大臣政務官	阿達 雅志（あだち まさし）様
国土交通事務次官	森 昌文（もり まさふみ）様
技 監	菊池 身智雄（きくち みちお）様
大臣官房長	藤井 直樹（ふじい なおき）様
道路局長	池田 豊人（いけだ とよひと）様
道路局次長	榊 真一（さかき しんいち）様
道路局企画課長	村山 一弥（むらやま かずや）様
道路局国道・技術課長	東川 直正（とがわ なおまさ）様
道路局環境安全・防災課長	野田 勝（のだ まさる）様

財務省 午後 15 時 30 分から（宮下衆議院議員：宮下秘書同行）

訪問先：主計局

「三遠南信道路の建設促進及び道路整備予算の拡充並びに道路整備事業に係る財源確保を求める要望書」

説明者：木下議員・下岡議長

記 録：佐藤議員

【要望書提出先リスト】

財務大臣	麻生 太郎（あそう たろう）様
財務副大臣	うへの 賢一郎（うへの けんいちろう）様
財務副大臣	鈴木 馨祐（すずき けいすけ）様
財務大臣政務官	伊佐 進一（いさ しんいち）様
財務大臣政務官	渡辺 美知太郎（わたなべ みちたろう）様
財務事務次官	岡本 薫明（おかもと しげあき）様
財務大臣官房長	矢野 康治（やの こうじ）様
主計局長	太田 充（おおた みつる）様
主計局次長	阪田 渉（さかた わたる）様
担当主計官	岩佐 理（いわさ おさむ）様

文部科学省 午後 16 時から（宮下衆議院議員：宮下秘書案内）

訪問先：初等中等教育局情報教育・外国語教育課

「次世代の新たな学び推進に関する要望書」の提出と意見交換

説明者：中森議員・下岡議長

記 録：東原議員

【要望書提出先リスト】

文部科学大臣 柴山 昌彦（しばやま まさひこ）様
初等中等教育局長 永山 賀久（ながやま よしひさ）様
初等中等教育局情報教育・外国語教育課長 高谷 浩樹（たかや ひろき）様
初等中等教育局情報教育・外国語教育課
情報教育振興室 室長 折笠 史典（おりかさ ふみのり）様

平成30年11月15日（木）【2日目】午前9：00

① 視察宿泊先より公用車（マイクロバス）にて帰庁

3. 訪問する者の構成

【喬木村議会】

議 長	下岡 幸文（しもおか ゆきふみ）
副 議 長	小池 豊（こいけ ゆたか）
議会運営委員長	後藤 章人（ごとう あきと）
総務産業建設常任委員長	下平 貢（しもだいら みつぐ）
総務産業建設常任副委員長	東原 靖雄（つかはら やすお）
社会文教常任委員長	中森 高茂（なかもり たかしげ）
予算決算常任委員長	木下 温司（きのした あつし）
予算決算常任副委員長	佐藤 文彦（さとう ふみひこ）
議会選出監査委員	昼神二三男（ひるがみ ふみお）
議会事務局長	鞍馬 淳（くらま あつし）

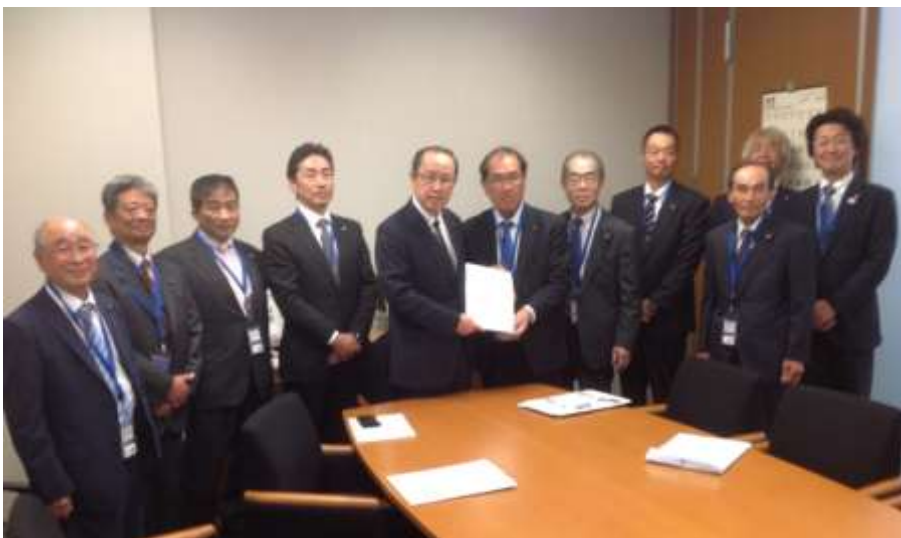
【喬木村】

喬木村長	市瀬 直史（いちのせ なおし）
高速交通対策課長	井澤 広美（いさわ ひろみ）

4. 報告

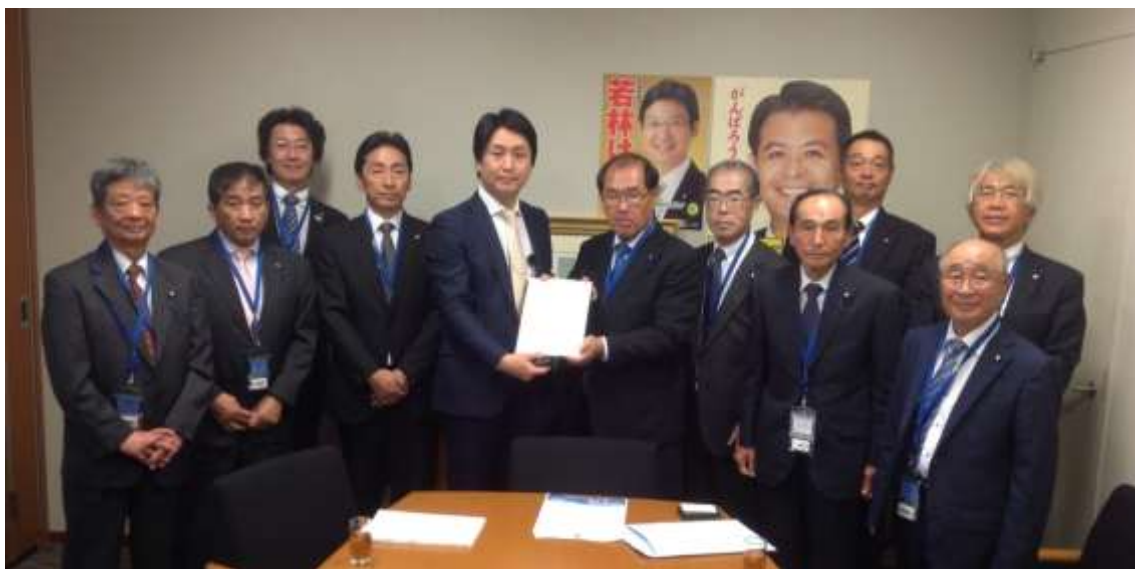
報告書を作成し、全員協議会・住民向け議会報告会において報告する。報告書をホームページに掲載する。

参議院議員宮島善文先生の事務所を訪問し、省庁への要望書を提出してご支援をお願いしました。



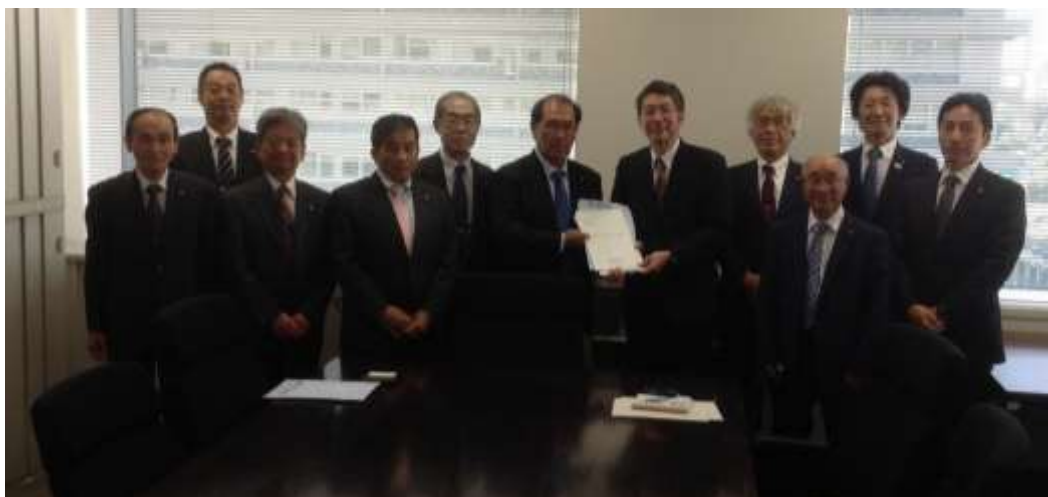
平成30年11月14日（水）、総務大臣・国土交通大臣・財務大臣・文部科学大臣あての要望書を提出し、宮島先生に要望書の説明を直接お聴き取りいただき、ご支援をお願いしました。

参議院議員 吉田博美先生の事務所を訪問し、省庁への要望書を提出してご支援をお願いしました。



平成30年11月14日（水）総務大臣・国土交通大臣・財務大臣・文部科学大臣あての要望書を提出し、東京事務所の吉武秘書様が丁寧にお聴き取りいただき、ご支援をお願いしました。

総務省自治行政局行政課を訪問し、要望書の提出・意見交換を行いました。



平成 30 年 11 月 14 日 総務省自治行政局行政課を訪問し、森源二自治行政局行政課長に石田総務大臣、北崎自治行政局長、吉川大臣官房審議官あて要望書を提出。町村議会の在り方に関する課題・休日夜間議会について意見交換を行った。

総務省自治行政局行政課への要望活動

「議会活動におけるICT活用についての要望書」石田真敏総務大臣含む4名宛一括して提出しました。

直接対応：自治行政局行政課長 森 源二 様
：自治行政局行政課行政第二係長 米岡 高志 様
：自治行政局行政課行政第四係長 石井 知幸 様

議長より要望書の説明

夜間休日議会に取り組む中で、会期中はもとより、日常的にそして災害時に調査研究し情報の早期共有、フィードワークやデータ管理するためにもICT活用は有用である。小規模議会の活用モデル事業の創設と指導及び実証したい旨要望。現在活用しているモアノート（富士ソフト）は国会議員も活用を始めたところであるが、地方議会の活用にあたっては様々な機能改善が必要であると考えている。については、今後活用幅を広げる中で検討したい旨を説明した。

森行政課長との意見交換要旨

○ICT活用について

森行政課長：村のICT機器の整備状況は？

市瀬村長：現在職員・議員に配備しているが、セキュリティの関係から庁舎内でのみの使用となっている。議員が庁舎外でも使用できるような仕組みを構築したい。議員の負担が軽減できる様な仕組みにしたい。

森行政課長：セキュリティに関しては容易に取り入れることは出来ると思いますが、何か良い仕組みがあるか省庁でも検討してみたい。

下岡議長：常に議員の手元にタブレット端末があることによって、議員活動の幅も広げられる。兼業議員が働きやすい環境を整備することが大切であると考えている。

事務局長：現在も資料データを個人のPCに送信しているが、データ量が多いものは送信できていない。これを解決するためにもクラウド型を活用した新しい仕組みが必要。

森行政課長：ICT環境と働き方の環境は大切。

下岡議長：通信を使った課題共有によって議員がその都度集まらなくても意見集約することが可能になる。

森行政課長：ICTを利用した議会の調査は行っているか？

下岡議長：安城市で行っている。町村議会ではまだまだ導入は少ない。

森行政課長：議員定数が少ないので環境整備は整えやすいのでは？

下岡議長：初期導入には経費がかかるので、個人負担が大きな壁である。

○その他

佐藤議員：過日中学生と議会で意見交換会を行った。中学生の議会に対する関心を議員自身がまだまだ理解しきれていない。

森行政課長：意見交換で鋭い意見ができましたか？

下岡議長：中学生にも、ICT活用教育の成果なのかプレゼンテーション能力の向上が見受けられた。議員もICTの活用に精通していく必要性を強く感じた。

下平議員：「町村議会の在り方に関する研究会の答申について、二つのパッケージが示されたが、総務省としては地方議会をどう導いて行くのか？」

森行政課長：各自治体で色々な事情が存在する。自治体の実情に合わせた議会の在り方があって然るべき。

下岡議長：喬木村議会は、夜間・休日議会の手法を取り入れながら議会の在り方を模索してきた。通年議会も検討することとし、喬木の実情にあった現行の地方自治法を工夫しながら喬木スタイルを確立していきたい。

森行政課長：2時間の審議を試行して結果的に出来たということですね

下平議員：2時間で審議するために事前準備は必要であるが、審議は充実した。

総務省

夜間休日議会の取り組みはについて、昨年の総務省訪問においては選挙制度の在り方について、地域選挙の問題点を掲げ、議員のなり手不足の解消を視点に要望をしてきました。

今回の訪問については、夜間休日議会の1年間の実施に伴い生じた問題解消の一つの手段としてICT活用を推進する事がなぜ必要かの説明をする中で、議会のICT推進モデル地区としての事業と、その有効活動に対する支援の要望を行いました。様々な反省事項や問題点をさらに議論して、なり手不足解消に向けた要望を継続して行って行きたい。

総務大臣
石田 真敏 様

議会活動における ICT 活用についての要望書

長野県 喬木村議会

議員活動におけるICT活用についての要望書

小規模自治体の議会議員は、住民をブレンとして、行政の監視や新たな政策提言など、議員単独で調査研究し、善政に役立てる活動をしています。地方議員の活動は昼夜や田園など場所も問わず、単独で活動するため、常に幅広い知見を有していることが求められますが、行政の仕組みや条例の内容など全てを把握していることは不可能です。夜間休日議会を試行してきた喬木村議会の総括として又「町村議会のあり方に関する研究会の報告書」で示された夜間休日議会を原則とした「多数参画型議会」の運営においてもICT活用が有効であると考えます。夜間会議を現実的に可能なものにするためには、事前準備が重要なポイントですが、データ量の増大から早期の送受信も困難な状況が確認され、議員が安心して議員活動に邁進するためには、クラウド型LTEモデルのタブレット活用の環境整備も必要と考えます。

タブレットに資料を蓄積し常に携帯することで、住民の質問に答えたり、住民生活の課題についても写真と要望を行政職員や同僚議員に送付することで、情報の早期共有や議員間討議にも繋がります。また、データ管理、ペーパーレスの推進など省力・省資源にもなります。人口減少・少子高齢化の時代を迎え、少人数の議会が行政と共に地方創生に取り組むにはICTを有効に活用することが重要と考えますが、小規模自治体にとっては導入費用などの初期投資、通信費等のランニングコストなどが壁になっています。

議員報酬も少なく政務活動費もない地方議会にとっては大きな課題です。そこで下記のとおり要望いたします。

記

1. 夜間休日議会に取り組む議員活動にICT活用を推進するモデル事業を創設し、有効活用について指導・効果研究を行うこと

総務大臣 石田 真敏 様

平成30年11月14日

長野県 喬木村議会

国土交通省への要望活動

「三遠南信自動車道の建設促進及び地方道路を含む交通ネットワークの強化を求める要望書」石井啓一国土交通大臣含む14名宛訪問して提出しました。

直接対応：道路局環境安全・防災課長 野田 勝 様
：道路局企画課道路事業調査官 松本 健 様

時間的制約がある中、要望の概要について説明し、名刺交換を行うと共に要望書を提出した。

国道交通大臣
石井 啓一 様

三遠南信自動車道の建設促進及び地方道路を含む
交通ネットワークの強化を求める要望書

長野県 喬木村
長野県 喬木村議会

三遠南信自動車道の建設促進及び地方道を含む交通ネットワークの強化を求める要望書

三遠南信自動車道は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域及び長野県南信州地域を結ぶ高規格道路です。この道路は、中央自動車道、東名高速道路、新東名高速道路と連絡することにより、沿線地域の交流はもとより地方創生に資する広範な交流ネットワークを形成し、更に医療機関への搬送路や災害時における緊急輸送路として、地域の安全・安心、国土強靱化の観点からも、極めて重要な役割を果たすものと期待されています。

南信州に位置する喬木村は、東南側に三遠南信自動車道が通り、村内には2ヶ所のーフインターチェンジが設置されます。また、2027年開通予定のリニア中央新幹線が北西部を通過するとともに、天竜川を挟んだ飯田市上郷地区にはリニア長野県駅が整備されます。まさに高速交通網の要に立地する当村にとりましては、この三遠南信自動車道とリニア中央新幹線との連携を、いかに村づくりの柱として位置付けていくかが大きな課題となっています。

この三遠南信自動車道とリニア中央新幹線長野県駅を連絡するルートのひとつとして、本村中心部を通過する県道上飯田線があります。この県道は狭隘で、軽自動車でもすれ違いが困難な箇所があり、豪雨時には土砂崩れによる通行止めが恒常化していることから、路線バスを含む大型車輛は全て喬木村道へ迂回しているのが状況です。

また、三遠南信自動車道「飯田上久堅・喬木富田インターチェンジ」からリニア中央新幹線長野県駅を連絡するルートのひとつとして、主要地方道下条・米川・飯田線があります。このルートにおいても、幅員が狭く湾曲した箇所が多く、車のすれ違いに苦慮している現状です。

このため、これらの路線の改良が住民にとって長年の悲願であり、また三遠南信自動車道とリニア中央新幹線長野県駅を結ぶ主要なアクセス道路として位置付けられることにも、大きな期待が寄せられているところです。

長野経済研究所の経済効果調査結果によりますと、三遠南信自動車道の整備効果は、直接効果に加え、波及効果を合わせると3県合計で6,022億円、また、開通効果は、観光客の入り込み増と交通時間節約による経済効果等を加味して3県合計で131億円と試算されています。三遠南信自動車道の開通は、アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区の指定と相まって、三遠南信地域の経済発展に大きく寄与することとなります。また、日本のスーパー・メガリージョンの形成に大きく寄与するリニア中央新幹線との連携で見込まれる高い経済効果は、当地域の将来におい

て今までにない期待が寄せられているところでもあります。

当村としましても、これらの波及効果を余すことなく取り込むことはもちろんのこと、長野県の経済のストック効果を最大限引き出すためにも、地方道を含む沿線の道路の改良について、下記のとおり要望いたします。

記

1. 三遠南信自動車道の建設促進と予算確保を図ること
2. 地方創生の為に、地方道を含め沿線の道路整備について、地方の財政状況に応じた支援措置をとること
3. 道路の整備・管理が長期安定的に進められるよう、新たな財源の創設を検討するとともに、用途を限定しない平成30年度補正予算を早期に編成し、平成31年度道路関係予算は所要額を確保すること

国土交通大臣 石井 啓一 様

平成30年11月14日

長野県 喬木村
長野県 喬木村議会

財務省への要望活動

「三遠南信自動車道の建設促進及び道路整備予算の拡充並びに道路整備事業に係る財源確保を求める要望書」麻生太郎財務大臣含む10名宛訪問して提出しました。

要望の概要について説明し、名刺を添えて要望書を提出した。

財務大臣

麻生 太郎 様

三遠南信自動車道の建設促進及び道路整備予算の
拡充並びに道路整備事業に係る財源確保を求める
要望書

長野県 喬 木 村

長野県 喬木村議会

三遠南信自動車道の建設促進及び道路整備予算の拡充並びに道路整備事業に係る財源確保を求める要望書

三遠南信自動車道は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域及び長野県南信州地域を結ぶ高規格幹線道路です。この道路は中央自動車道、東名高速道路、新東名高速道路と連絡することにより、沿線地域の交流はもとより地方創生に資する広範な交流ネットワークを形成し、更に医療機関への搬送路や災害時における緊急輸送路の確保等、地域の安全・安心、国土強靱化の観点からも、極めて重要な役割を果たすものと期待されています。喬木村ではリニア中央新幹線の建設が村の北側で予定され、天竜川を挟んだ飯田市上郷地区に長野県駅が設置予定となっています。

三遠南信自動車道は村の南側に飯喬道路第3工区の建設が始まり、村内2カ所にーフインターチェンジが設置されます。当村にとりましては、このリニア中央新幹線と三遠南信自動車道を如何に連絡し、二つの高速交通網のストック効果を地域経済に活かすかが大きな課題です。

三遠南信自動車道喬木インターチェンジとリニア中央新幹線長野県駅へはいつでも県道上飯田線がアクセス道路となります。しかし、この県道は狭隘で軽自動車でも擦れ違いが困難な箇所があり、路線バスを含む大型車両は全て喬木村道へ迂回せざるを得ない状況であり、この路線の改良が村民の悲願でもあります。長野経済研究所の経済効果調査結果によりますと、三遠南信自動車道の整備効果は直接効果に加え、波及効果を合わせると3県合計で6,022億円、また開通効果は、観光客の入り込み増及び交通時間節約による経済効果等を加味して3県合計で131億円と試算されており、三遠南信自動車道の開通は、アジア No1 航空宇宙産業クラスター形成特区の指定と相まって、三遠南信地域の経済

発展に大きく寄与されます。

大都市圏との人的交流や東三河・遠州地域との物流を現状から抜本的に改善し、経済成長を支え、地域住民の安全・安心を確保するストック効果の高い社会資本の整備は重要で、投資効果も高いものがあると思います。今後、この地域が県境を越えて広域的に連携することにより、産業の更なる活性化につながり、経済の好循環をもたらす道路のストック効果を早期に発揮できるよう、また大規模災害時には「命をつなぐ道」として多大な効果が発揮できるよう、三遠南信自動車道及びアクセス道路の整備促進が益々重要となってきます。

つきましては、三遠南信自動車道とリニア中央新幹線のストック効果を最大に発揮するため、次の事項について要望いたします。

記

1. 三遠南信自動車道の建設促進と予算総額確保
2. 地方創生推進のために真に必要な道路整備については地方の財政状況に応じた支援措置をとること
3. 道路の整備・管理が長期安定的に進められるよう、新たな財源の創設を検討するとともに、用途を限定しない平成30年度補正予算を早期に編成し、平成31年度道路関係予算は所要額を確保すること

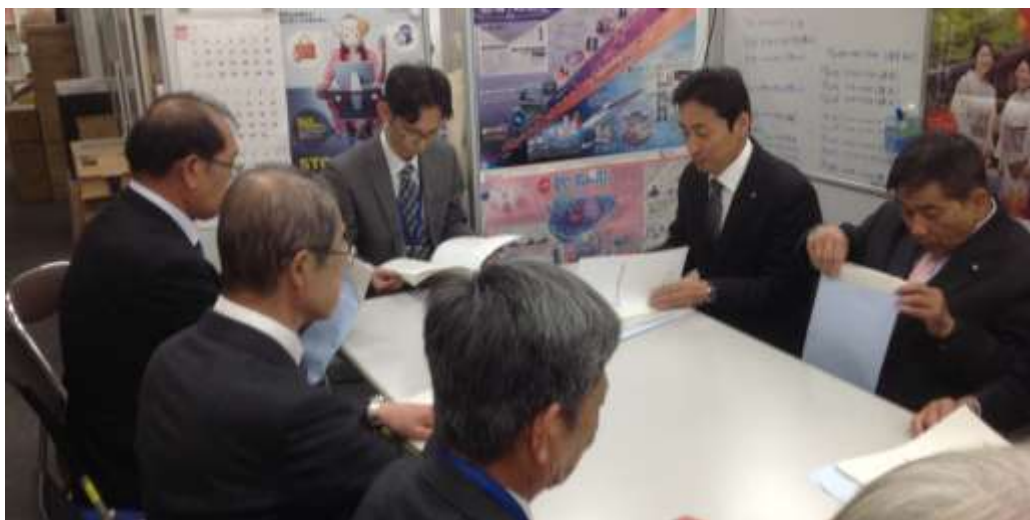
財務大臣 麻生 太郎 様

平成30年11月14日

長野県 喬木村

長野県 喬木村議会

文部省初等中等教育局情報教育・外国語教育課を訪問し、要望書を提出し意見交換しました。



平成 30 年 11 月 14 日 文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課を訪問し、文部科学大臣あて要望書を提出。折笠情報教育振興室長、と意見交換した。

文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課への要望活動

「次世代の新たな学びの推進に関する要望書」柴山昌彦文部科学大臣含む4名宛一括して提出しました。

直接対応：初等中等教育局情報教育・外国語教育課

情報教育振興室長 折笠 史典 様

：初等中等教育局情報教育・外国語教育課

課長補佐 佐藤 有正 様

：初等中等教育局情報教育・外国語教育課

学習情報係 志賀 祐介 様

村長より要望書の説明

折笠室長との意見交換要旨

折笠室長：喬木村のICT教育は充分承知しているので、新たに一層充実したICT教育を推進するモデル地区として進めて行く。国としてもモデル的に推進したい。喬木村には、指導員1人配置されている、情報モラル教育で、子供たちが日常的に使用するなかで安全、安心してインターネットの使用できる環境が必要でその充実を図っていく。統合型公務支援システムについては、喬木村、大町市はICT教育が先行しているので他の市町村に呼びかけ、全県での導入を呼びかけてもらいたい。

下岡議長：中学3年生と、議会との懇談会に、ICTを利用した遠隔的にテレビ会議システムを行った。

文部科学省

昨年は、ICT活用教育の取り組みとその成果の報告を中心に行い、更なる推進に向けた助成などを要望して来ました。今回の要望は、情報モラル教育の推進とそれも含めた教員のICT指向上に向けた取り組みに対して、財政措置をとるのものです。さらには、プログラミング教育に必要な設備等に対して支援を頂きたい点と、教職員の負担軽減などによる教育向上を促進するための、校務支援システムの導入に対する財政支援を要望しました。

モデル地区として県の助成を受ける中で、統合的校務支援システムの問題点も注視しながらまたICT活用教育の状況を鑑み来年度の新たな要望を行っていきたい。

文部科学大臣
柴山 昌彦 様

次世代の新たな学び推進に関する要望書

長野県 喬木村
長野県 喬木村議会

次世代の新たな学び推進に関する要望書

喬木村では次世代の子どもたちが多様な他者の考えに触れ、協働し、新たな課題や価値を見出し解決していける資質や能力が必要と考え、文部科学省の「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」に取り組みました。3年間の事業の結果、ICT機器の整備、教員のICT活用能力の向上、児童・生徒主体のICTを活用した学びと段階を進んできています。

今年度からは、喬木中学校において、「次世代の教育情報化推進事業(情報教育の推進等に関する調査研究)」の受託を受け、教科教育における有効なICT活用の研究に取り組んでいます。小中ともに「新たな学び・たかぎスタイル」と銘打ち、「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」における基準を一定水準上回っている地域として、ICT機器の活用の継続と発展をテーマに歩みだしています。キーワードは日常の授業改善であり、ICT機器を日常的に活用するなかで、主体的・対話的で深い学びの実現による授業改善、教科の枠を超えた情報活用能力の育成をどのように進めるかが課題です。その上で今後重要な観点になるのが、子どもたちの可能性や能力開発の拡大につながる「プログラミング教育」と、子どもたちを取り巻く環境を鑑みた「情報モラル教育」の推進だと考えています。

プログラミング教育の実施につきましては、「小学校 プログラミング教育の手引き 第二版」をもとに、小学校におけるプログラミング教育の実践の推進を図っていく所存ではございますが、必要な機器やソフトの選定・整備、効果的な指導方法の充実に、もう一步踏み込んだ対策の

必要性を感じています。

情報モラル教育についても、情報技術の飛躍的な発展のなか、日々目まぐるしいスピードで情報が更新されていく情報化社会で生きる子どもたちに対応した情報モラル教育の充実には、より一層の教職員の研鑽に加え、家庭・地域住民を含めた包括的な対策の必要性を強く感じているところです。

このような多様な課題に応えるためには、教職員には充実した教員研修や自己研鑽を確保し、学校が未来を生き抜く子どもたちのためになる教育を行っていく場にならなければいけないと考えます。しかし、学校に対するニーズが多様化する現代において、教職員の労働時間の問題は本村においても対岸の火事ではなく、国が進める「働き方改革」のもと、統合型校務支援システムの導入により、教員の校務事務時間の削減と子どもに接する時間、教職員のスキルアップの場の確保の増加を実現していきたいと取組始めています。

また、本村においても配置をしていますが、人的サポートとしてICT・学校教育に精通したICT支援員の配置も、機器整備と合わせて教員の実際の機器活用、指導力向上には、必要不可欠であります。

最先端のICT教育を実践し、地域の未来を創る人材の育成を村づくりの基本とする当村にとって、次世代の新たな学び推進に向けた施策が必要となっています。

つきましては、更なる情報活用能力の育成に関し、次の事項について要望いたします。

記

1. プログラミング教育の円滑な実施に向け、必要な設備・ソフト・指導等についてより一層充実した指導・支援を行うこと
2. 情報モラル教育を含めた教員のICT指導力向上に向けた養成・研修及び人的サポートとしてのICT支援員の配置の義務化と財政措置をおこなうこと
3. 教職員の業務負担軽減及び教育の質の向上のため、ICTを活用した統合型校務支援システムの導入について指導と財政支援を行うこと

文部科学大臣 柴山 昌彦 様

平成30年 11月14日

長野県 喬木村

長野県 喬木村議会

成果と今後の要望活動の改善及び検討案（議員の意見集約）

- ・ 地元国会議員より要望の際は数字など具体的なものを示すと効果があるとアドバイスいただきましたので次回はこれを活かしたい。（改善案）
- ・ 議会と村と合同で共有する地域課題について要望活動を実施した。対応する省庁も、真摯に対応いただいていることが肌で感じる事が出来た。（成果）
- ・ 総務省自治行政局、文部科学省初等中等教育局においては意見交換する機会がもてました。喬木村の現状と課題、今後の方向性について直接考えを伝えることが出来たことは大きい。（成果）
- ・ 4省庁を1日で訪問することは日程的に厳しい。検討が必要。（改善案）
- ・ 11月は全国的な要望時期と重なるために、10月下旬に要望活動の時期を変更する必要がある。（改善案）
- ・ 省庁の職員を講師に研修する機会を設けることも可能であることが確認できたので、今後検討する必要がある。（検討案）
- ・ 昨年に続き2回目の要望活動を終えましたが、連日多くの議会、市町村長、県が要望活動している姿に触れ、苦労や重要性を強く感じた。全国には1700余の市町村があることから、名刺を手渡し、訪問した証を残すことも必要なこと。（成果）
- ・ 他町村議会においては、省庁への要望活動を実施したくても地元国会議員によっては要望できない実態を確認した。現状の要望できる環境を活かして住民福祉向上実現という職責を果たすために継続して要望活動を行う必要性を感じた。近隣町村でも何年も省庁へ要望活動することで効果が現れていることは承知している事実である。喬木村はようやく一歩踏み出したところであると思います。（成果）